

第1部 本会議

2015-16年の立野ガバナー年度は、国際ロータリーの舵取りを務めることになるR I ラビンドラン会長のメッセージをエンジンとして、力強く船出した。この日の会場には、スリランカ出身の会長のエネルギッシュなスピーチ画像が吹き替え音声つきで写され、R I のミッションを出席者全員が共有しただけでなく、それが2660地区の行動方針と真っ直ぐにつながるものであることを理解する機会となった。

ラビンドラン会長は、ロータリーが本来あるべき姿に立ち返ろうと考える。単純な会員増強よりも、人材の多様さと質をあわせ持つクラブを目指そうと問いかける。そこから、世界にある困難に向きあって、クラブや自分自身が GIFT(プレゼント)となって変化を起こそうではないかと語るのだ。立野ガバナーは、それを受けて「ポリオの撲滅」・「会員増強(活力あるクラブをつくろう)」・「ロータリー財団(活力の維持)」・「戦略計画委員会(クラブは中長期の視点を持とう)」・「地区改革」・「人材育成」・「ITの活用(MY ROTARY への登録など)」の6つの柱を明瞭に示した。

第1部の前半は、この地区方針を高島PG・宮里氏・栗原氏がそれぞれの担当分野を掘り下げて解説する時間。後半は「ラビンドランR I 会長のひととなりとその方針—R I を身近に—」と題して、樋口・地区代表幹事の進行のもと、R I 本部活動経験を持つ岡部・横山・井上各PGが立野ガバナーとともに登壇し、R I の実像をいきいきと語った(近藤PGはフロアから発言)。この後に先述のラビンドラン会長のスピーチ画像が披露されて、その言葉にこめられた思いを登壇者が解き明かすという趣向で、周到に準備された構成であった。

さて、この日いろいろな場面で用いられていた国際ロータリーの新しく美しいロゴは、グローバルな視点を持つR I の理念と、地域に根差す活動とを滑らかにつなぐ象徴のように感じた。これから1年、みずみずしい季節が今日始まる。